

進捗状況の概要【1ページ】

北海道大学では、「近未来戦略 150」が掲げる「世界の課題解決に貢献する北海道大学へ」のビジョンの下、「ユニバーサルキャンパス」構想の5つの目的（下図上段）の実現に向けて、教育研究から組織体制にわたる大学改革を敢行する「**1-4-4 改革プラン**」を実行している（下図に本頁記載項目と次頁「特質すべき成果」記載項目（黄色字）をまとめた）。

<ガバナンス強化プラン>

～改革の敢行に向けてガバナンス体制を強化～

「**大学力強化推進本部**」の下に「**HUCI 統括室**」を設置し、本構想を推進している。各種データの収集・分析を行う「**総合 IR 室**」の設置、各種会議等への外国人の登用、部局評価に基づく予算配分等を進めている。

<教育改革プラン>

～グローバル人材の育成に向けた4つの取組～

1. NITOBЕ 教育システムによる先進的教育の実施：全学的な特別教育プログラムとして、学部生対象の「**新渡戸カレッジ**」と大学院生対象の「**新渡戸スクール**」を開校した（次頁詳述）。

2. 異分野連携による「国際大学院」群の新設：「**国際連携研究教育局 (GI-CoRE)**」における本学が「強み」を持つ学際的な国際連携研究・教育を元に、平成29年4月から3つの「**国際大学院**」を新設した（次頁詳述）。国際共同教育プログラムについては20件を導入した（平成28年度まで）。また、外国人留学生を対象として、平成27年度に「**現代日本学プログラム**」を開始するとともに、「**Integrated Science Program (ISP)**」開設（平成29年秋）の準備を進めている。

3. ラーニング・サテライトの機動的開設：本学や現地の学生等に対して「海外」で教育プログラムを提供する「**海外ラーニング・サテライト (LS)**」を世界各地に展開し、平成28年度には15カ国・地域の25拠点で47科目を開講し、169名の本学学生を派遣した（次頁詳述）。

4. Hokkaido サマー・インスティテュートの展開：世界の第一線で活躍する研究者を国内外から招へいし、本学教員との協働により「北海道」で授業を提供する「**Hokkaido サマー・インスティテュート (HSI)**」を平成28年度に開始した（次頁詳述）。

<システム改革プラン> ～教育改革の遂行と大学力の総合的な強化に向けた4つの取組～

1. 全学的な教学マネジメント体制の整備：平成27年度には国際通用性のある新GPA制度を全学部へ、またナンバリング制度を全学部と大学院に完全導入し、平成28年度には4学期制を全学部を導入した。さらに、シラバスの英語化、学生の英語力の把握・分析及び授業アンケートの実施等を推進した。

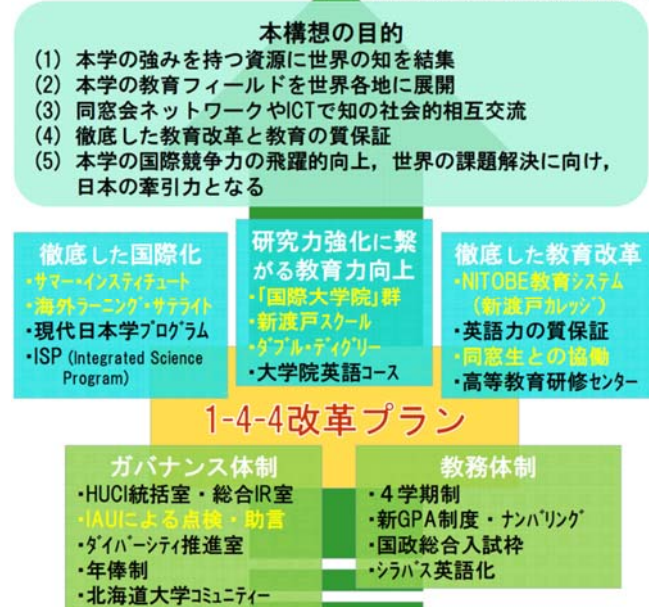
2. 人事制度の国際化：平成26年度は「外国人招へい教員制度」の開始や**正規教員への年俸制の導入**、平成27年度は「クロスアポイントメント制度」の導入や外国人教員に特化したテニュアトラック制度の開始、平成28年度は国際公募を原則とする等、人事制度改革を進めた。また、外国人等の多様な人材が働きやすい環境の創出のため、平成28年度に「**ダイバーシティ推進室**」を設置した。

3. 国際対応力の高度化：平成27年度に「**高等教育研修センター**」を設置し、教育研究・業務全般の高度化・国際化に向けた多様な研修を企画・実施した。また、事務職員を対象に、多様な英語研修や海外派遣プログラムを実施し、高い英語能力を有する職員の拡充や国際対応力の向上を進めている。

4. 国際広報力の強化：平成27年度に「**グローバルリレーション室**」を設置し、世界に発信する情報を質・量ともに拡充させている。平成28年度には「**北海道大学アンバサダー・パートナー制度**」を開始し、25カ国・地域に99名のアンバサダー・パートナーを委嘱した。世界各地への情報発信や国際的評価向上への支援等を依頼し、海外同窓会の設立支援も含めて「**北海道大学コミュニティ**」の拡大を進めている。

Hokkaido ユニバーサルキャンパス・イニシアチブ

黄色文字は次頁「特質すべき成果」記載項目



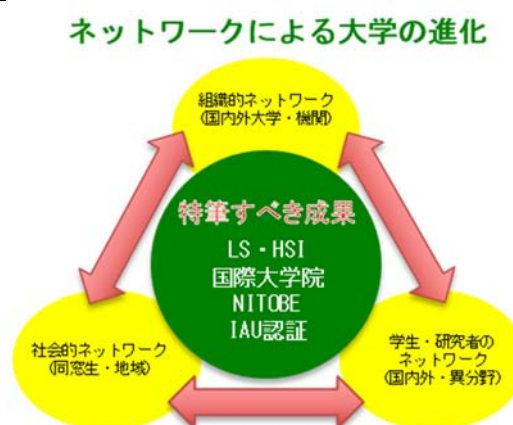
北海道大学が誇る強み・特色

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

組織的、社会的、学生・研究者間の多様なネットワークが育まれ、活用されることで、「北海道大学ユニバーサルキャンパス」が進化している（右図）。以下はその先進例である。

○「海外ラーニング・サテライト (LS)」と「Hokkaido サマー・インスティテュート (HSI)」による世界との協働

「LS」は課題が生じている国際現場や先進的な教育研究拠点に本学教員・学生を派遣する、また「HSI」は世界の第一線で活躍する研究者と国内外の優秀な学生が北海道に集結するプログラムである。このような本学の教育フィールドの世界展開や世界の知の結集による多種多様なプログラムにより、「世界の課題解決に貢献する」人材の育成を行っている。オックスフォード大学やスタンフォード大学をはじめとする海外の研究者との協働による授業科目の実施は、本学教員が先進的な教育手法の経験を得るとともに、教育の質の保証や国際通用性の向上にも繋がり、ダブル・ディグリー・プログラムの導入に発展した事例もある。さらに、本学の教育研究情報の世界各地への発信にも寄与し、世界的な認知度や国際評価の向上、国際共同研究の促進効果も期待される。LS と HSI の規模は当初計画を大幅に上回って拡大しており、平成 28 年度の LS の提供科目数は 47 科目（目標：15 科目）、HSI の招へい研究者数は 97 名（目標：30 名）、参加学生数は 1,598 名（目標：1,250 名）となっている。



○「国際連携研究教育局 (GI-CoRE)」から「国際大学院」へ

総長直轄の教育研究組織として開設した「GI-CoRE」では、世界トップレベルの教育研究ユニットを誘致し、本学の「強み」や特色を活かした国際連携研究・教育を推進している。平成 26 年度に癌治療の分野でスタンフォード大学と連携する「量子医理工学グローバルステーション (GS)」、人獣共通感染症の分野でメルボルン大学等と連携する「人獣共通感染症 GS」を設置し、また平成 27 年度には食水土資源の分野でカリフォルニア大学デービス校等と連携する「食水土資源 GS」を設置した。平成 28 年度には、これらの国際的かつ学際的な教育研究の成果を大学院教育へと発展させるため、新たな国際大学院である「医理工学院」、「国際感染症学院」、「国際食資源学院」の設置を大学設置・学校法人審議会に申請し、認可された。このような取組は、本構想が目指すグローバル人材育成に繋がるだけでなく、研究力と教育力の強化が相互に連動し、大学の国際通用性の向上や国際競争力の強化への効果が期待される。平成 28 年度には、新たに「ソフトマターGS」、「ビッグデータ・サイバーセキュリティGS」、「北極域研究GS」を設置し、大学院教育への展開に向けた準備を進めている。

○「NITOBE 教育システム」による先進教育

選抜した一部の学生を対象として、全学的な特別教育プログラムを実施している。学部学生を対象とした「新渡戸カレッジ」(平成 25 年度開校)では、本学の 4 つの基本理念に加え、先進的な教育プログラムによるグローバルリーダーの育成を目指している。フェロー(本学同窓生より選抜)による教育プログラム(フェローゼミ、対話プログラム等)により、カレッジ生は国際社会で生きる人間としての自覚の涵養と自身のキャリアの形成に繋げている。また、留学支援英語科目の提供や独自に開発した短期留学プログラム・海外インターンシップ等の実施により、語学力や国際社会で自立するための能力を育成している。大学院生を対象とした「新渡戸スクール」(平成 27 年度開校)では、異なる言語・文化・専門性を有する多様な(留学生を含む)学生からなる「国際社会の縮図」による徹底的なチーム学習・課題解決型学習を実施している。また、学修・研究履歴の記録及び可視化を学生の自己評価や計画作成に繋げ、教員による教育・指導に反映させる「NITOBE ポートフォリオ」を活用した能動的学修を提供している。両校に一貫した NITOBE 教育システムの教育手法等は、有効かつ実現可能なものから全学的な展開の検討・導入を進めており、両プログラムを履修する学生の人材育成だけでなく、本学の教育改革を先導し、全学的な教育力の向上を牽引する役割も担っている。

○国際機関による点検・助言の活用

平成 28 年に国際化の戦略および実施状況について、国際大学協会 (IAU) の「大学国際化のための助言サービス (ISAS2.0)」による点検および今後の方向性についての助言を受けた。点検活動の完了に対して、本学は世界で初めて IAU ラーニング・バッジの認証を受けた。